

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	58人	算数	58人	理科	58人
第5学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人

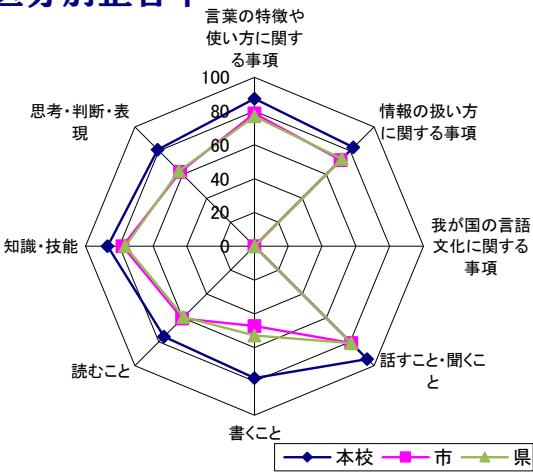
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	87.4	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	82.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	94.4	81.0	81.1
	書くこと	78.0	47.2	52.8
	読むこと	75.7	60.5	59.3
観点	知識・技能	86.9	78.0	76.5
	思考・判断・表現	80.9	62.3	63.1



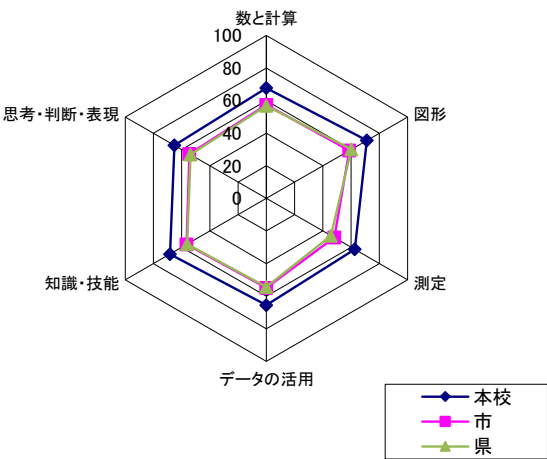
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は、県の平均を10.5ポイント上回っている。 ○既習漢字を正しく読む問題では、全ての問題で93%以上の正答率とよくできていた。 ●主語と述語の組み合わせとして適するものを選択する問題では、24.1%の児童が、場所を修飾する副詞句を主語と誤認していた。文の主体や主題を示すという主語の役割を理解できていないものと思われる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常的に既習漢字を使い、正しく読んだり書いたりする指導を継続する。 ・日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりするよう声を掛ける。また、主語の表し方は様々であることや、主語と述語が離れて表されている場合があることも指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は、県の平均を9.7ポイント上回っている。 ○国語辞典の見出し語は、五十音の清音、濁音、半濁音の順に並んでいることが実体験として理解できている児童が多いことが伺える。	・学校図書館と連携し、児童一人一人が国語辞典や漢字辞典を継続的に使用できる経験を増やしていく。また、語句調べの際には、単に意味を羅列するのではなく、文脈にあった意味を選択できるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	本年度は出題なし	
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、県の平均を13.3ポイント上回っている。 ○話し手が話した内容を説明した文として適するものを選択する問題の正答率が100%である上に、話された意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題の正答率も98.3%と県・市の平均を16～17ポイント上回っている。話の内容を理解し、自分の考えをまとめる力がついていると考えられる。	・考えをまとめる際には、理由を付けて話すことを繰り返し経験させていく。 ・友達の話最後まで聞いたり、友達の発言をつないで話したりすることができるよう、児童の発言や発表に対する意図的な問い返しの場を増やしていく。
書くこと	○平均正答率は、県の平均を25.2ポイント上回っている。 ○81%の児童が、自分の考えと理由を明確にして書くことができていた。 ●2段落構成で書くという条件を満たせなかった児童の割合は27.6%で、文章を意味のまとまりごとに区切り、読者が情報を理解しやすくするという段落の役割を理解できていない児童が多いことが伺える。	・主語や述語、接続詞を大切にする指導を続け、自分の考えを友達に分かりやすく記述させるような学習活動を行っていく。その際、意見や理由を段落に分けさせるようにし、構成を意識できるようにしたい。
読むこと	○平均正答率は、県の平均を16.4ポイント上回っている。 ○叙述を基に、登場人物の気持ちを捉える問題の正答率は91.4%で、県の平均を17.3ポイント上回っている。 ●指示語の内容を捉える問題の正答率は56.9%、指示語を本文の内容に置き換える問題の正答率は48.3%と低く、指示語の理解には課題が見られる。	・中心となる語や文に線を引きながら読んだり、繰り返し出てくる語を指示語に言い換えたりすることを今後も継続して学習を進めていく。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.7	57.4	56.9
	図形	71.1	58.7	60.1
	測定	62.5	48.1	45.7
	データの活用	65.5	54.9	54.3
観点	知識・技能	68.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	65.1	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

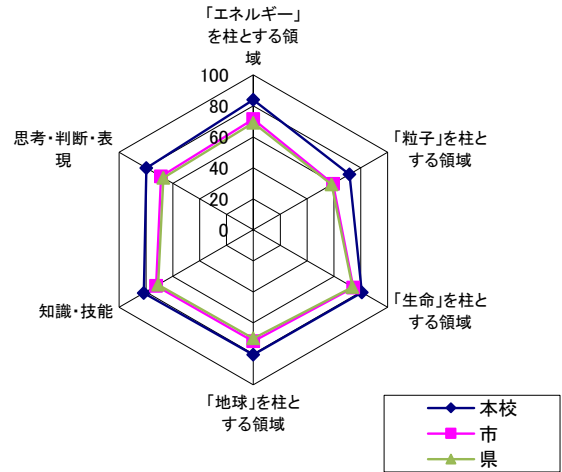
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、県・市の平均を10ポイント程度上回っている。 ○かけ算の性質を利用して2けた×1けたを計算する式を立てる問題では、市・県の平均を23ポイント程度上回っている。 ○●あまりの意味について理解し、計算の間違いを説明する記述式問題については、市・県の平均を14ポイント程度上回っているが、正答率は39.7%であり、また無回答率が20.7%であった。 ●式の意味を正しく捉え、言葉で説明する問題の正答率は、市の平均を4.5ポイント下回っている。	・小数・分数の定着を図るために、基礎・基本問題の反復練習を行う。 ・数直線の目盛りの読み方などを再確認する時間を設け、読み取りのミスが防げるよう指導する。 ・少人数指導などで算数が苦手な児童に対する個別対応の充実を図る。 ・式の意味を捉える活動の際に、どうしてそのような思考に至ったのかを説明する機会をつくり、友達との意見交換をすることで表現力を育めるよう働きかける。
図形	○平均正答率は、県・市の平均を11～13ポイント上回っている。 ○正三角形の性質を理解し、作図する問題では、市・県の平均を16ポイント程度上回っている。 ○●二等辺三角形の性質を理解し、三つ目の頂点を見つける問題では、市・県の平均を11～12ポイント上回っているが、正答率は44.8%であった。	・作図などの技能を問う問題で個人差が見られたので、全員が十分に習熟しているかを机間指導等で確かめながら、丁寧に授業を展開していく。 ・図形問題に取り組む際に様々な考え方を引き出すような声掛けをすることで、図形を複数の視点から見る習慣をつけさせ、問題を多角的に捉えられるようにする。
測定	○平均正答率は、県・市の平均を15～17ポイント上回っている。 ○重さを基準量のいくつ分かで考え説明する問題では、市・県の平均を20ポイント程度上回っている。 ○●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市・県の平均を11～12ポイント上回っているが、正答率は46.6%であった。	・問題文の読解が苦手な児童に対し、距離や長さ、重さなどの具体的な場面を想像したり確認したりさせながら単位の感覚が身に付けられるよう支援する。
データの活用	○平均正答率は、県・市の平均を11ポイント上回っている。 ○二次元の方から傾向を読み取る問題では、市・県の平均を14ポイント程度上回っている。 ○●目的に合わせて選んだ棒グラフについて、その棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、市・県の平均を7ポイント程度上回っているが、正答率は50.0%で、無回答率は15.5%であった。	・データの読み取りについて、気付いたことを周りの友達と共有する際に、論理的な説明ができるよう促す。 ・無回答が多く目立ったので、問題に対する答え方の指導や、説明する際の書き方などを授業の中で適宜指導していく。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	83.9	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	71.6	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	80.8	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	80.6	72.0	70.1
観点	知識・技能	81.6	72.5	70.9
	思考・判断・表現	79.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○音の性質の問題では、音の振動の伝わり方を選ぶ問題で、県の平均を17.4ポイント上回っている。 ○磁石の性質の問題では、磁石につくものの条件についての問題で、県の平均を24.0ポイント上回っている。	・実際に実験をすることで児童の理解が深まるので、今後も課題意識をはっきりともたせた上で実験を行い、きちんとまとめを行うことで知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○物の重さの問題では、粘土の形の違いによる重さの変化について、予想を基に実験結果を構想できるかをみる問題で、県の平均を23.0ポイント上回っている。 ○複数の物の重さを同じにした時の、体積の違いについて考える問題で、県の平均を15.4ポイント上回っている。	・文章問題では、読み取る力が必要になるので、何を問われているのかを考えながら答えることを、今後も指導していく。 ・知識の定着を図るとともに、物質の量に関するイメージを高めるために、今後も具体物を使った学習を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。 ○昆虫についての問題では、クモとモンシロチョウの体のつくりやあしの数を比較し、クモが昆虫かどうかを判断する問題で、県の平均を21.1ポイント上回っている。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の違いを答える問題では、県の平均を3.0ポイント下回っている。	・相違点については、実際に採集したり飼育したりして実物と触れ合い、視点を明確にして比較しながら観察させるなどして、児童の知識や理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。 ○日なたと日陰の地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題で、県の平均を19.7ポイント上回っている。 ●温度計の正しい使い方を選ぶ問題の正答率は、県や市の平均をやや下回っている。	・問われていることに対して、結果を適切にまとめられるよう、一つ一つ確認しながら指導をしていく。 ・実験器具の使い方については、正しい使い方をきちんと習得できるよう、手に取る機会を増やし、なぜそうすることが必要なのかを丁寧に押さえていく。

宇都宮市立陽東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(1)「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」、(2)「家で、学校の宿題をしている。」、(3)「家で、学校の授業の予習をしている。」、(4)「家で、学校の授業の復習をしている。」、(5)「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」、(6)「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」では、肯定的割合が、どの項目でも県の平均を上回っており、学習習慣が身に付いていることが分かる。

○(16)「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」、(17)「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」、(18)「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」、(19)「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」、(20)「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る。」では、肯定的割合がどの項目でも県の割合を上回っており、学習内容への興味関心が高いことが分かる。授業の導入や課題の内容を今後も工夫していきたい。

○(26)「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。」、(27)「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」、(32)「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」では、肯定的割合が、どの項目でも県の割合を上回っており、互いに協力し合い、高め合っていることが分かる。

○(47)「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか。」、(48)「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」、(49)「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。」では、使用時間・視聴時間が1時間以下の割合が、県の割合を上回っており、テレビやゲーム、スマホを節度をもって使用していることが分かる。

●(7)「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」では、肯定的割合は58.7%であり、県の平均を、5.1ポイント下回っている。様々な原因で生活が多様化している昨今ではあるが、規則正しく毎日の生活が送れるよう家庭への啓発を行っていきたい。

●(9)「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」では、1時間より少ないと回答している児童が県の割合を4.8ポイント上回っている。十分な学習時間確保できている児童とそうでない児童に分かれる形となっている。家庭での学習習慣付けとしても、基礎学力の定着においても、学習時間の確保は重要だと考える。学年だよりや懇談会等で家庭への啓発を行ったり、学習状況に応じた宿題を出したりしていきたい。

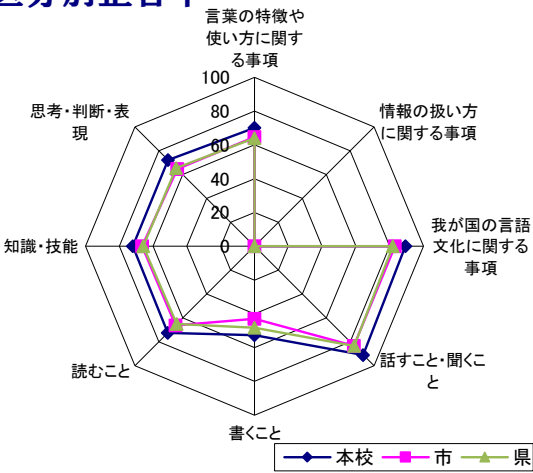
●(11)「学校の授業以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」では、30分より少ないと回答する割合が、県の割合を9.6ポイント上回っている。学校で読書時間を十分に確保したり、お勧めの本を紹介して読書へ興味を湧くよう働きかけたりすることに加え、家庭への啓発も行っていきたい。

●(44)「毎日、同じくらいの時こくにねている。」、(45)「早ね、早起きを心がけている。」の肯定的割合が、いずれも県の割合を下回っている。TVやゲーム、スマホの使用時間は、比較的少ないことから、他の事柄が主な原因であると思われる。家庭への啓発を行い、生活習慣の見直しを図りたい。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	89.3	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	91.0	83.3	83.4
	書くこと	52.7	42.8	48.2
	読むこと	72.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	72.0	66.5	65.9
	思考・判断・表現	72.2	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

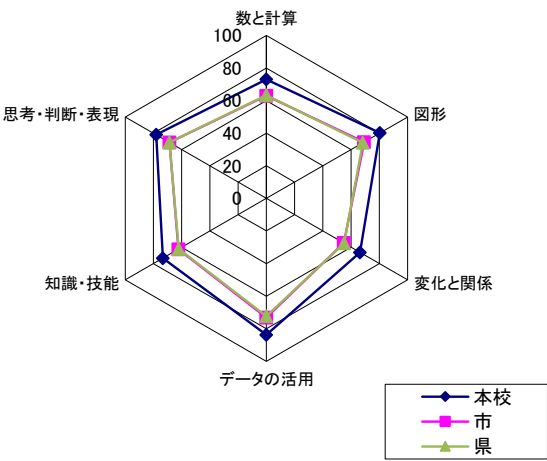
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は、県の平均を6ポイント上回っている。 ○既習漢字の熟語の読みを答える問題の正答率は97.3%であった。 ●文中の修飾と被修飾の関係を捉える問題の正答率は13.3%であり、指定された語が修飾している言葉を問われているにも関わらず、その語を修飾している語を選択している児童が66.7%いた。	・日常的に既習漢字を使い、正しく読んだり書いたりする指導を継続する。 ・文章を推敲する際に、修飾語を使用して様子等を詳しく記述するよう声掛けをし、修飾・被修飾の関係を意識できる場面を増やすとともに、文を取り上げ、関係を分かりやすく整理するなどして、理解を深める。
情報の扱い方にに関する事項	本年度は出題なし	
我が国の言語文化にに関する事項	○平均正答率は、県の平均を7.4ポイント上回っている。	・学校図書館の資料や宮っ子ダイアリーのことわざコーナーなどを活用し、学校生活の中で、日常的に慣用句やことわざにふれる機会を増やしていく。 ・自主学习などで、慣用句やことわざを使った作文などに取り組ませていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、県の平均を7.6ポイント上回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題の正答率は94.7%であり、県の平均を10.8ポイント上回っている。また、話合いから自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題の正答率も90.7%と高かった。話の内容を理解し、自分の考えをまとめる力がついていると考えられる。	・話合い活動において、友達の話を最後まで聞いたり、友達の発言をつないで話したりすることができるよう、聞き取りや自分の意見の要点を分かりやすく伝えることなどについて意識を高める。
書くこと	○平均正答率は、県の平均を4.5ポイント上回っている。 ○指定された条件を満たしたり、自分の考えを取り入れたりして書いている児童は、いずれも市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●領域全体の正答率は52.7%であり、高いとは言えない。	・文章記述の際には、主語や述語、接続詞を適切に使用するような指導を行い、自分の考えが読み手に分かりやすく伝わる記述を意識した学習活動を行う。その際、事実と考えを分けて記述させるなど、構成も意識して書くことができるようにしていく。
読むこと	○平均正答率は、県の平均を7.4ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちを具体的に想像する問題の正答率は、県の平均を12.3ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちを、指定された長さで空欄に適するように答える問題では、54.7%の児童が条件を満たして答えることができなかった。	・朝の読書や学校図書館を活用することで、読書習慣を身に付けるとともに、登場人物の気持ちを表す語や文を見付けたり、それを基に気持ちを考えたりする学習を継続して行う。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.0	63.0	63.3
	図形	80.3	69.2	68.3
	変化と関係	66.2	54.8	55.0
	データの活用	83.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	73.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	78.1	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

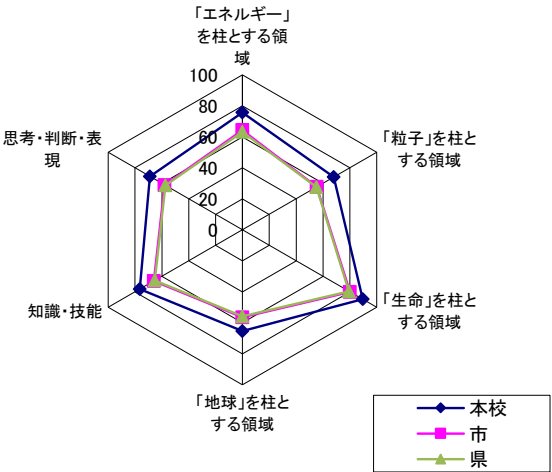
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、県・市の平均を9～10ポイント程度上回っている。 ○小数第一位÷整数＝小数第一位(商が純小数)の計算では、県の平均を18ポイント以上上回っている。 ○●大きい数の仕組みを理解しているかどうかをみる問題では、市・県の平均を15ポイント程度上回っているが、正答率は52.0%であった。 ○●計算のきまりを理解し、間違いを説明することができるかどうかをみる記述式問題では、市・県の平均を18ポイント以上上回っているが、無回答率が10.7%であった。	・普段使わない「大きい数」を生活に結び付けるなどして意識的に使うようにし、「大きい数」のしくみを復習する。 ・位取りについて苦手意識がある児童に対し、桁数の少ない数から改めて復習の機会を作り、知識の定着を図る。 ・言葉で説明をすることが難しい児童のために、教科書の語句を利用して説明の支援をしていくことで、苦手意識を軽減させる。
図形	○平均正答率は、県・市の平均を11～12ポイント程度上回っている。 ○●三角定規の角の大きさを理解し、組み合わせでできた角の大きさを求めることができるかどうかをみる問題では、市・県の平均を13ポイント程度上回っているが、正答率は66.7%であった。また、三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を選択する問題では、無回答率が県の平均より1ポイント近く上回り、4.0%であった。	・作図については道具の使い方を意識しながら今後も反復練習を行い、技能の定着を図る。 ・図形をノートにかいていく作業だけでなく、具体物を準備し、目の前で自分で操作する経験を積むことで、角度や長さの感覚を養っていく。 ・類似問題を解かせ、問題に対する経験値を積み、どこに着目して答えを導くかを明確にしていく。
変化と関係	○平均正答率は、県・市の平均を11ポイント程度上回っている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市・県の平均を14ポイント程度上回っている。 ○●割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかをみる問題では、市・県の平均を18ポイント程度上回っているが、正答率は58.7%であった。	・伴って変わる2つの数量の関係を表した表の読み取り方を多面的に捉えさせ、考えたことを自分で説明させることで、論理的な思考力を養う。 ・割合に関しての知識を改めて授業内で復習し、割合で表すことのよさを感じさせながら適切に使い分けができるようにする。
データの活用	○平均正答率は、県・市の平均を10～11ポイント程度上回っている。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市・県の平均を12～13ポイント程度上回っている。 ○●二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる記述問題では、市・県の平均を5～6ポイント程度上回っているが、無回答率は10.7%であった。	・データの読み取りについて、気付いたことを周りの友達と共有する際に、表やグラフを基に、論理的な説明ができるようにする。 ・他教科でもグラフの読み取りは多く見られるので、関連付けながら指導を進め、より深い学びへとつなげていく。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.7	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	68.1	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	89.6	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	65.3	56.4	55.8
観点	知識・技能	76.5	66.0	65.3
	思考・判断・表現	68.9	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。 ○乾電池の数やつなぎ方が異なる3つの回路のうち、プロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ問題の正答率が、県の平均を23.8ポイント上回っている。 ●図で示された回路から電流が流れない原因となる箇所を選択する問題では、県や市の平均正答率を若干下回っている。	・電気の分野では、児童一人一人が手を動かして回路を組んだり、結果から分かることについて指導の際に一つ一つ丁寧に押さえたりしながら理解の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○空気と水を温めた時の体積の変化の程度には違いがあることを、実験結果を基に比較して表現する問題で、県の平均を19.0ポイント上回っている。 ○水の三態変化について、予想を基に実験結果を構想できるかをみる問題で、県の平均を20.4ポイント上回っている。	・実験が楽しいだけの体験にならないように、予想を立てたり結果と考察をきちんと結び付けて押さえたりすることで、なぜそうなるのかという理由をしっかりと理解できるようにする。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○骨のはたらきとして正しいものを選ぶ問題では、県の平均を30.0ポイント上回っている。	・実際に目で見ることが難しいものについては、モデルを使ってイメージさせることで、正しい理解ができるようにする。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、すべての問題で県の平均を上回っている。 ○水たまりのできにくさについて、粒の大きさと水のしみこみ方の関係を関連付けて表現する問題では、県の平均を19.8ポイント上回っている。 ●窓に結露が発生する理由と、結露がつく場所について答える問題では、県の平均を5.7ポイント上回っているものの、4割弱の正答率だった。	・自然現象や科学的事象について、語句と結び付けて理解できるようにする。 ・日常経験と学習を結び付けることで、具体的な場面において事象が起きた原因を考えられるようにする。

宇都宮市立陽東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(5)「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」に対する肯定的回答は73.5%であり、県全体の64.5%を9.0ポイント上回っている。学年として、自主学習を日々の課題としており、内容としてテストの予習や復習を提示してきた結果であり、今後とも自主学習に力を入れた指導をしていきたい。

○(35)「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に対する肯定的回答は59.6%であり、県全体の47.7%を11.9ポイント上回っている。学校生活の中で、自分のことを話すスピーチの場を設けることや、課題の解決方法について全体に説明する学習を取り入れてきた効果だと考えられる。

○(60)「しょう来のゆめや目標をもっている。」に対する肯定的回答は96.3%であり、県全体の89.1%を7.2ポイント上回っている。学級活動や4年生での総合的な学習の時間の単元「10さいのちかい」、道徳の授業において、将来について目を向けるキャリア教育を重視してきたことが実を結んできている。

○国語、算数、理科に対する「～の学習はよく分かりますか。」に対する肯定的回答は、いずれの教科においても県全体の肯定的回答を上回っている。特に算数は、6.1ポイント上回っており、本校で実施している習熟度別学習や、少人数指導が効果的に行われている成果と思われる。

●(41)「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」に対する肯定的回答は53.2%であり、県全体の65.2%を12.0ポイント下回った。当番活動や係活動について、個人だけでなく、学級全体で見直す機会を確保するとともに、周囲の活動に感謝を感じられるような道徳の授業を行うなどして、自己有用感が高まるように支援したい。

●(57)「だれに対しても、思いやりの心をもって接している。」に対する肯定的回答は79.7%であり、県全体の91.7%を12.0ポイント下回った。陽東小の合言葉である「だれにも親切」については、これまでも折に触れて指導、支援してきたが、今後は思いやりや親切の大切さについて、学年全体で学べる場を設けるとともに、模範的な行動や言動があった際に、教員から紹介を行うことで、よさが広がるようにしたい。

●(89)「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」に対する肯定的回答は60.8%であり、県全体の72.0%を11.2ポイント下回った。社会的な知識への探究心を高めるために、普段の会話から地理的な内容を取り入れたい。また、自主学習においても、インターネットや図書を活用した国際的な内容や地理的な分野の学習の仕方を例示するなどし、改善を図りたい。

宇都宮市立陽東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・言語活動の充実。	・国語だけでなく、様々な教科において日頃から課題に対する自分の考えや、振り返りを文章で書く活動を多く取り入れる。	・「書くこと」に関する平均正答率は、4年生で市の正答率より30.8ポイント、5年生で市の正答率より9.9ポイント高かった。 ・4年生では81%の児童が、自分の考えと理由を明確にして書くことができていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の文章を書く問題で、2段落構成で書くという条件に合わせて書けていた児童は、4年生で69%、5年生で49.3%だった。県の平均を上回ってはいるものの、条件が付くと正答率が下がる傾向が見られる。	・条件の中で自分の文章をまとめる。	・各教科の書く活動において、キーワードや段落構成、文章の量などの条件を設定して文章を書く機会を増やす。 ・自分が書いた文章を推敲する習慣を付けさせる。